

11月9日、10日に民泊型修学旅行第1号が無事に終了しました。

この場をお借りし、民泊協力家庭をはじめ、ご関係者各位に対して心から御礼申し上げます。おかげをもちまして、今回来町された神奈川県立大楠高等学校から大変高い評価をいただきました。

ところで、町は何のために民泊型交流事業を展開しているのでしょうか？回答は明白です。町と町民の元気につながると確信しているからにはほかなりません。また、来てくれた学生たちに人生でとても大切な事(都市部では希薄になってしまった「人情」や「絆」)を民泊を介して学んでもらうためです。

新たなインフラ投資をすることなく行える三方良し(学生良し、町民良し、社会良し)型事業であることが本事業の特徴です。「町民良し」そして「社会良し」として町民の精神活性と経済活性の両面で期待できる事業です。

今月号では、民泊型交流事業がもたらす経済波及効果について検証します。

神奈川県立大楠高等学校に見る直接消費額について

●町内で消費された民泊受け入れ関連直接消費額(=町内に落ちたお金)

①民泊協力家庭へ支払われた謝金額	1,724,800円
②協議会が得た事務手数料収入額	215,800円
③協議会が町内で支払った運営経費	119,500円
④民泊家庭が準備の為に町内事業者から購入した額	394,707円
⑤学生が町内で購入したお土産購入額	498,000円
⑥修学旅行引率団が町内で消費した合計額	202,800円
⑦学生の三段峡見学時の消費額(昼食代含む)	152,440円

町内直接消費額合計 3,308,047円



ちなみに平成24年度国土交通省発表の広島県内の観光客の日帰り一人当たり観光消費額は2,983円とされています。

しわいマラソンなど一部を除く町のイベントのほとんどが、広島県内からの日帰り型観光客であることを踏まえた場合、県内日帰り観光客に換算しますと民泊で来町した大楠高校は1,108名を動員するイベントに消費額では匹敵します。

今回ご協力くださった民泊家庭は50家庭。今回事務局として従事したスタッフはのべ6名です。町民が主役のため、非常に少ないスタッフで運営できる事業なのです。

超高齢・過疎化社会の先頭を進む当町の今後の観光振興事業の在り方に一石を投じる結果であったことを改めてご理解いただきたいと考えています。

なお、当町が推進する安芸太田町人情田舎体験事業は海外を含む各地で高評価をいただきつつあり、その大きな要因は【町民のみなさんが普通に持っている人情】であることをご理解くださり、より多くの町民の皆さまのご参加をお待ちしております。

